

行政経営改革



令和2年度より、「市民と共に新たな価値を生み出す市役所改革」を旗印に、行政経営改革に着手しています。改革実行の3つの視点として「OPEN(市民に開かれた市役所へ)」「SMART(合理的で無駄のない市役所へ)」「RELIABLE(市民から信頼される市役所へ)」を掲げ、全庁あげて取り組んでいます。

TOPICS

OPEN!の柱は市民の力 =シチズンシップの醸成。

市役所が市民や企業、地域で活動する団体などの連携を通じて、よりよいまちを共につくっていく、そのための仕組みづくりを進めます。組織も改変し、2021年度より、教育委員会が所管していた公民館など社会教育部門を市長部局に移管し、生涯学習と地域活動の一体化を通じて市民とまちづくりを進める体制を強化していきます。

SMARTな西宮市を着実に実現。

ICTを通じて市民の利便性を高めるとともに、行政の効率化を進めています。一昨年に立ち上げた市公式LINEアカウントは登録者が50,000人を超えて、粗大ごみ予約などの機能が好評です。ハンコレス化なども加速度的に進んでいます。また、市内19箇所にフリーWi-Fiスポットが設置され、市民が市情報にアクセスしやすくなりました。

不祥事の根絶、 意欲みなぎる西宮市役所へ。RELIABLE

「RELIABLE」に資する改革は、市民から信頼され、職員にとって働き甲斐のある市役所になるために、不可欠なことと認識しております。一昨年来、多発した職員の不祥事に対する再発防止はもとより、職員の意欲・能力を發揮できる働きができるある市役所づくりに向け、これまでの制度の見直しに着手しています。

教育大綱を改訂し、 地域で子育てを支えるまちを目指します。

西宮市の教育行政指針の根幹である教育大綱を改訂しました。シチズンシップの醸成を盛り込むとともに、知・徳・体に集約される子供の育ちの基本を示すなど内容に厚みを加えました。今後は広くこの理念の共有を図り、社会全体で子供たちを温かく育む西宮市を目指します!



※リクルート社住宅情報サイト「SUUMO」調べ

「住みたい自治体ランキング」9年連続1位!! これからも堅実に、西宮市の魅力を高めていきます!!

上記以外の令和3年度
**西宮市政の
主な施策・取組**

- 公園リニューアル事業(老朽化した公園を順次更新)
- 保育所入所選考AIシステム導入事業
- 学校情報化推進事業(一人一台端末と体制強化)
- 生活困窮世帯およびひとり親家庭の学習支援事業拡充
- 夜間中学
- 広域入学事業
- 公立小学校における欠席連絡アプリ導入
- 学校施設のトイレ環境改善事業
- 子ども食堂運営支援事業
- 地域密着型(介護)サービス事業所等補助事業
- 福祉タクシー利用券助成事業の拡充
- 生活困窮者自立支援事業
- 特定不妊治療費助成事業
- 起業家支援センター整備事業(令和2年度補正対応)
- 民間自転車等駐車場整備補助事業
- 市民力・地域力向上につながる生涯学習の推進事業
- 電子申請システム導入事業
- 障害のある人の雇用推進事業
- 市役所前公共駐車場の初期無料時間を60分に延長
- この他にも、新型コロナウイルス感染症対策含め、多岐にわたる事業を進めています。



教育・子育て



文教住宅都市・西宮にとって、充実した子育て環境はとても大切です。産前産後ケアの拡充、一段と力を入れた待機児童対策、公立学校に地域との協働を促すコミュニティスクールの取り組みに力を入れ、放課後事業の全校展開をめざすなど、精力的に進めています。また、困難な環境にある子どもたちへの対策にも力を入れています。

TOPICS

産前産後ケア拡充、 待機児童ゼロに向けて。

令和2年度からは産婦健診補助の新設に加え、3年度からは多胎妊娠への支援を拡充するなど、より安心と感じられる産前産後サポート体制を目指しています。待機児童対策では、令和3年4月には、国家戦略特区を活用した小規模保育事業を開始や、保育士就職支援センター「ここにし」の新設など、全庁挙げて取り組んでいます。

不登校児童生徒の支援強化と 子ども家庭総合支援拠点設置へ。

児童虐待の発生を防止し在宅支援の強化を図るため、遅くとも令和4年度までに子ども家庭総合支援拠点を設置します。

不登校児童生徒への対応については、市立施設として「あすなろ学級」を瓦木地区や北部地域にも開設するとともに、「不登校児童生徒を支援する民間施設に関するガイドライン」を策定し、地域コミュニティや各種団体と積極的に連携を進めます。

乳幼児等医療費助成を拡大します。

子育て支援の充実を図るために、乳幼児等医療費助成制度の所得制限を見直し、対象外となっている世帯の児童への医療費自己負担額の一部助成を、小学3年生まで拡大します。これにより、新たに約5,200人が対象となります。今後、さらに拡大を目指して頑張りたいと思います!

子どもの近視を防ぐキャンペーン

「宮っ子アイ・ケア・5(ファイブ)」を進めます。

西宮市では全国に比べて近視の子どもが多く、また国のGIGAスクール構想(一人一台のタブレット端末配布)が重なり、視力低下への懸念がさらに高まっています。市では市教委とともに「宮っ子 アイ ケア 5(ファイブ)」として、テレビやスマートフォンを長時間みることをやめ、できるだけ屋外で遊ぶことや寝る前に目を使いすぎることを控えるなど5項目を挙げ、子どもの健康を守る取り組みを進めて参ります!

福祉・まちづくり



「人生100年時代」と言われる中で、健康づくりはそれぞれの個人にとってだけでなく、コミュニティや市にとっても非常に大切です。西宮市では医療体制や福祉施設の充実とともに、予防や早期発見を重視し、誰もが暮らしやすいまちづくりを目指しています。

TOPICS

健康ポイント制度がはじまります。

高齢の方々の介護予防や健康寿命の延伸を目的として、新たに健康ポイント事業をスタートさせます。歩いた歩数や健康に関するイベント等の参加に応じて、商品などと交換できるポイントを集め、楽しく健康づくりに取り組める仕組みです。また、お出かけ時やウォーキング中に腰かけていただく休憩場所として、「どうぞベンチ」を令和3年度中には約50か所の設置を進めてまいります。

県市統合病院は2025年秋開院を 目指して進行中です。

アサヒビル工場跡地に予定されている市立中央病院と県立西宮病院との統合新病院については、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、統合再編新病院の感染症対応機能強化を図るため、統合再編基本計画を改定しました。また、閉院後の中央病院跡地(林田町)については、民間医療機関の誘致を中心に検討を進めています。

4月1日から、パートナーシップ宣誓証明制度 がスタートします。

誰にとっても住みやすいまち、居心地の良い西宮市を作りたい、そうした思いのなかで、住みにくさ、生きにくさを感じている方々が性別にとらわれない多様な生き方を実現できるように、「西宮市性の多様性に関する取組の方針」を策定し、パートナーシップ宣誓証明制度を導入します!

高齢者交通助成制度は 新たにバス助成を行います。

これまで市で行ってきた高齢者交通助成ですが、鉄道会社との協議の結果、これまで通りの制度を続けることができなくなってしまいました。そこで市としては、新たにバス助成制度を作り、お一人500円の助成をすることとしました。対象者へのご案内は6月以降となる予定です。バスを使って、外出して元気になります!

環境



本市に住み、学び、働くすべての人々が環境学習を軸とした持続可能なまちづくりを進めることうたった環境学習都市宣言の精神を承継し、さらに発展させていくため、具体的なアクションを進めます。

TOPICS

2050年までのCO₂排出ゼロ(カーボンゼロ)を表明しました。

西宮市として将来的なカーボンゼロを達成するために、まずはごみ焼却施設で得られるカーボンフリーな電力の公共施設への供給のモデル実施や、市施設のLED化に向けたロードマップの策定などを取り組みます。また、各家庭での省エネ行動などを促進する補助事業(冷蔵庫など買い替え促進、蓄電池補助など)を実施します。

指定袋の導入等を通じて、 ごみ削減の推進を市民と共に進めます。

地球規模で深刻化するごみ問題に西宮市でもさらに取り組みを進めます。ごみの減量と分別排出の徹底を促進するため、令和4年度から指定袋制度を導入します。また「プラスごみ削減運動の推進」を市内外への方針として掲げ、市民とともに積極的に取り組んでまいります。市施設に給水スポットを設置しマイボトル使用を促すなど、率先した取り組みを実行します。

森林環境譲与税を活用し、 西宮の山々を守ります。

住宅都市である西宮市にとって、住環境の充実、自然環境の保全は重要課題です。甲山をはじめ六甲山系の豊かな山々を適切に管理し整備していくために、まずは令和3年に里山林の保全に必要な森林調査等に着手します。次年度以降、住宅隣接地など危険個所の保全や、里山再生事業に取り組んでいきたいと考えています。

アスベスト飛散防止対策を拡充、 健康被害を未然に防ぎます。

飛散することによって健康被害が心配されるアスベスト(石綿)。国も法律を改正して取り組み強化を進めていますが、市もこれまで進めてきた解体等工事現場への立入検査体制の拡充に加え、新たに携帯型の検査機器の導入や、吹き付けアスベスト除去等の補助事業の拡充などを通じて、より体制を強化していきます。

**西宮市長
石井としろう**

